

BANANA FISH Journal

美術監督・水谷利春氏インタビュー そして、NYロケハン写真を公開!!

Q.ご自身が思う「BANANA FISH」の魅力をお教えてください。

A.ジャンルの的には「クライムストーリー」なのかな?という第一印象でしたが、どんどん引き込まれていくに連れ、アッシュと英二の友情(というより絆?)を中心とした濃厚な人間ドラマに、魂が揺さぶられました。

Q.原作を読まれて、どのような作品にしたいと思われましたか?美術を制作する上で重要視した部分など、こだわられた点をお教えてください。

A.とにかく、舞台はニューヨークのロウアーイーストサイド中心のストーリーですので、1シーン1カット、見る人がニューヨークを体感できるような背景美術に徹したいと、日々励んでいます。「落書き」も立派な「アート」です!



Q.時代を現代に変更したことにより、制作においてよかった点などはありますか?

A.確かにベトナム戦争より、TV中継で空爆の様子を見たりしたイラク戦争や、40年以上前に公開されたNY麻薬映画「スーパーフライ」より近年公開された様々なニューヨーク映画のDVDを片っ端から20~30本も見られたので、資料集めという点では現代で良かったのかもしれません。

Q.現代のNYの姿が、アニメの中でも多々再現されているかと思いますが、「BANANA FISH」の世界観を感じることで、作中で描かれているスポットなどがあれば教えてください。

A.いわゆる、ダウントウン地区のロウアーイーストサイドがアッシュ達の活動の基点となりチャイナタウン、リトルイタリー、イーストリバーと広がります。この地区が舞台になっている映画はたくさんありますので、取材から帰って、それらの映画を見ると、自分が英二となって、アッシュの街に帰って行くような気分になってしまう。



Q.実際にNYへロケハンに行かれたとのことですが、印象的だった点や、NYに赴いたからこそ描けたシーンなどありましたら、教えてください。

A.舞台が舞台だけに「危ない所」へも行かなくちゃ!でも、行きたくないなという思いもありましたが、金網越しにカメラを突っ込んで写真撮ったり、ビルの間隙に入り込んだり、「NYPD」と書かれた映画でよく見るパトカーにカメラ向けたりと、危ないのはむしろ私たち取材チームのほうだったかも?と、言う訳でプレッシャーもなく、良い写真がたくさん撮れました。



Q.最後に、美術監督である水谷様としてぜひ見てほしい、本作の見どころを教えてください。

A.「NY取材」は、単に写真を撮るというよりスタッフの一体化、やる気の共有、という意味からすると「結団式」の様なものだと思いますので、各担当部署の各スタッフの気合いに負けないように美術の「チーム・バナナ」が描くニューヨーク全てをご期待ください!!



TVアニメ 「BANANA FISH」

7月よりフジテレビ
“ノイタミナ”ほかにて放送開始!

Amazonプライム・ビデオにて
日本・海外独占配信

CAST

アッシュ・リンクス
cv. 内田雄馬
奥村英二
cv. 野島健児
マックス・ロボ
cv. 平田広明
ディオ・ゴルツィネ
cv. 石塚運昇

STAFF

原作: 吉田秋生「BANANA FISH」
(小学館 フラワーコミックス刊)
監督: 内海紘子
シリーズ構成: 瀬古浩司
キャラクターデザイン: 林明美
総作画監督: 山田歩 鎌田晋平
ハードボイルド監修: 久木晃嗣
色彩設計: 鎌田千賀子
美術監督: 水谷利春
撮影監督: 淡輪雄介
編集: 奥田浩史
音楽: 大沢伸一
音響監督: 山田陽
アニメーション制作: MAPPA